

世界トイレの日

2024/11/19

国連人権高等弁務官事務所

ヴォルカー・ターク国連人権高等弁務官の世界トイレの日での挨拶。

「十分な衛生環境は、人びとの尊厳の感じ方に大きく影響する。十分な衛生環境自体が人権であり、健康、生命、教育、労働、適切な住居および安全な水に関する権利など、その他多くの人権を享有するためにも必要不可欠である。しかし、世界人口の約半数が未だ適切な衛生環境にアクセスできていない。女性、女兒、その他月経期にある人びとは、月経に関するスティグマや有害な固定観念などを理由に不均衡な影響を受けている。世界で、4億2,700万人の子どもたちが学校で基本的な衛生サービスを受けておらず、思春期を迎えた女兒の出席に特に大きく影響する。女性、女兒、LGBTIQ+の人びとは、特に日没後に長距離を歩かなくてはいけない時や、不十分な衛生施設を使わなくてはいけない時に、ジェンダーに基づく暴力のリスクを受けやすい。そのため、各家庭、職場、医療機関、教育機関、その他公共の場に衛生施設を設置することは不可避である。すべての人の衛生環境への普遍的なアクセスを確保するために、障がい者、スラムの住人、農村に住む人びと、ホームレスの人びとなど、周縁化されている人びとのニーズが優先されなければならない。衛生インフラやサービスの管理に関する意思決定プロセスにおいて、周縁化され、不利な立場に置かれた個人やグループの声を聞くべきである。『世界トイレの日』に際し、私は差別なく衛生環境に関する権利を享有できるよう、行動を加速させることを強く求める。」